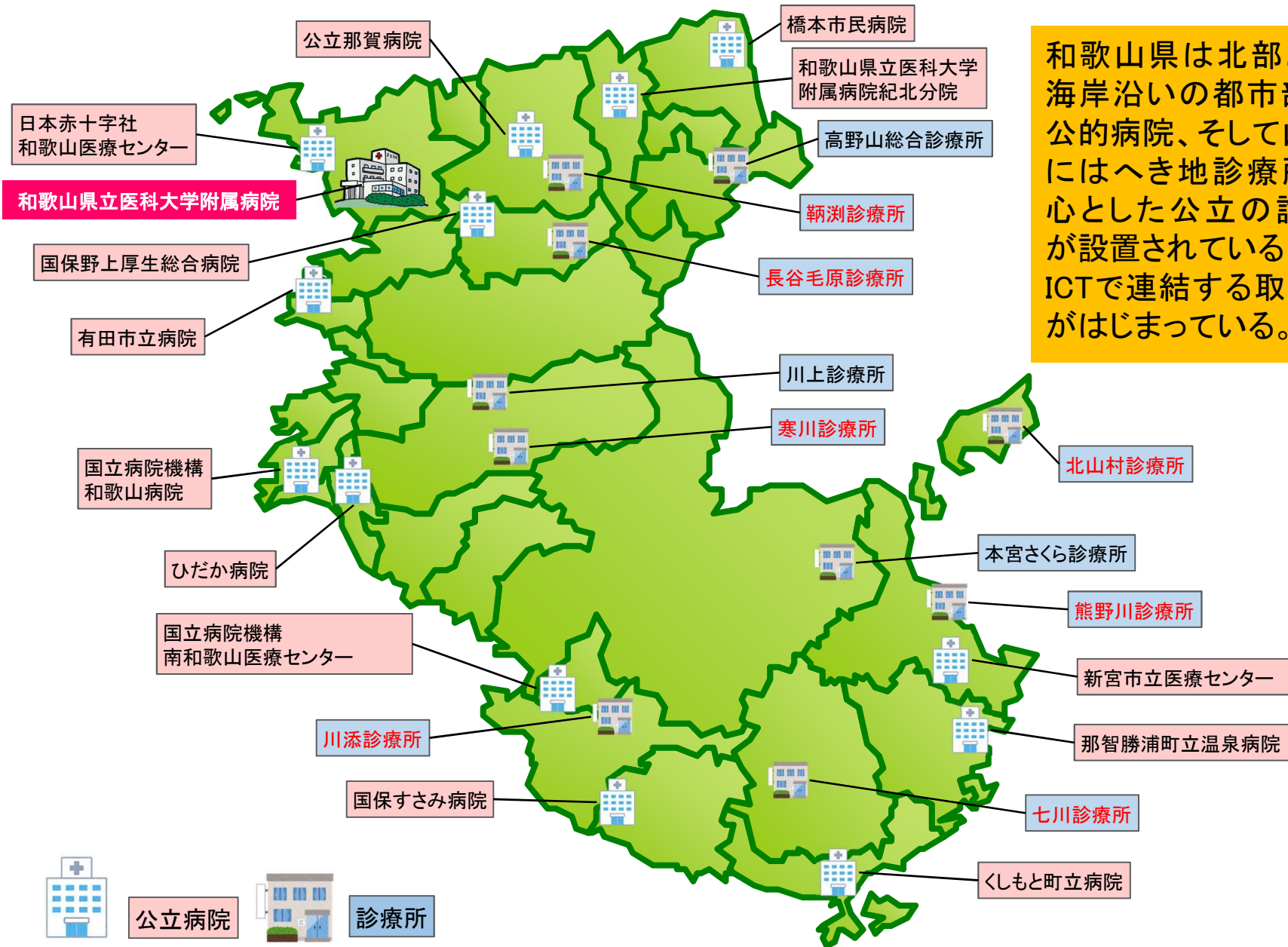


ICTの活用の事例

自治医科大学地域医療学センター 小谷 和彦

和歌山県で整備された全県的な遠隔医療支援システム



和歌山県は北部および海岸沿いの都市部には公的病院、そして山間部にはへき地診療所を中心とした公立の診療所が設置されている。ICTで連結する取り組みがはじまっている。

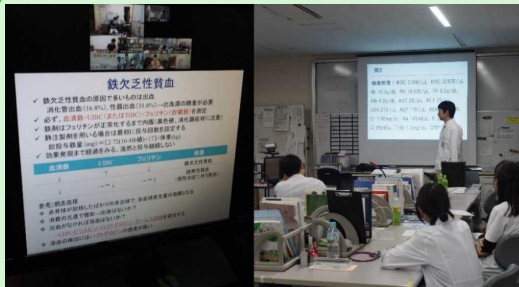
遠隔医療支援システムを用いたへき地医療支援

診療



へき地を含む全県的地域の病院や診療所を受診した患者さんを、システムを通じて和歌山県立医大の専門医が現地担当医とともに診療を行う。

学修



和歌山県立医大の教員が行う専門的な講義を、システムを通じて地域の病院や診療所の医師も聴衆できる。

遠隔医療支援システム



カンファ



若手医師同士の勉強会、和歌山県立医大や県内医療機関でのカンファに、地域の病院や診療所から参加することが可能である。

医療情報を扱うことのできる専用回線を用いたテレビ会議システム。自治医科大学卒業生、和歌山県立医大地域枠など若手医師が派遣されうる和歌山県内計23か所の公的病院、診療所に導入されている。

遠隔医療支援システムを用いた地域医療支援事業の特徴

診療；遠隔外来

- ・へき地に暮らす患者さんは和歌山県立医大まで来なくても、へき地診療所を受診し、システムを用いることで、専門外来を受診できる。
- ・へき地診療所のかかりつけ医と和歌山県立医大や他の専門医が議論し、治療方針を速やかに決定できる。

学修；遠隔講義

- ・若手医師が時間的、距離的に参加できなかった和歌山県立医大の講義をシステムを用いて、へき地にしながら学修できる。

カンファ；遠隔会議

- ・勤務時間内に出張はなく実施され、移動や心身の負担コストを減らすことができる。

* へき地診療所に勤務する医師と和歌山県立医大の教員の顔の見える機会が増えている。

- ・へき地にしながら参加できるため、カンファ(会議を含む)に自主的に参加する者が増えている。